



杉田 イチゴ農家を営む横田代表は、以前は製造業のエンジニアだったそうですね。

横田 はい。子供の頃から慣れ親しんだ極上の吉見イチゴを守るため家業を継ぎました。吉見町でも農家の高齢化は深刻で、8割が65歳以上なんですよ。

杉田 将来が心配ですね。原因は何でしょう？

横田 生産コストは上昇を続けているのに卸値は低く抑えられ、十分な収入が見込めないからです。また、当農園でも若い人を雇っていますが、「農業の将来はジリ貧」と思っている親御さんらの反対などで、農業の楽しさややりがいを感じる前に辞めてしまう人が多いことも一因なのではないかと。こういうイメージを何とか覆したいと思っています。

杉田 若い人が定着しないのは残念ですね…。

横田 おっしゃる通りです。そうした状況の中で私は、前職で培ってきたノウハウを活用して直売所を設けたり、ネット通販と合わせた独自の販売ルートを確認したりして、事業を展開しているんですよ。

杉田 精力的に6次産業化を進めているんですね。新たな販売ルートを開拓して、JAや他の農家からの反発はありませんか？

横田 反発どころか、みんなが応援してくれます(笑)。町や県、JAにとっても、農業をいかに活性化させるかが大きな課題ですからね。独自の販売ルートを確立し、良い商品をつくるために必要なコストをきちんと提示したうえで販売できるから、やりがいにつながります。おかげさまで、リピーターの方も多いいんですよ。



杉田 横田代表は楽しんで農業をやってらっしゃいますよね。若い方々にも農業の素晴らしさを伝えてほしいです。

横田 はい。今後は、農業を始めたい若い人や中高年の方々に対して畑と農機具をお貸しして、当農園で働く若いスタッフが技術指導をする体制をつくりたいです。これからの農業は、生産者であると同時に経営者であることも求められます。ですから、経営ノウハウを身に付けていただき、販売チャネルを拡大できるように手助けしたいですね。

あとは、販売ルートのない新規就農者の農産物を「わけあり品」として直売所で販売し、支援したいですね。つくったものをお客様に「おいしい」と言っていただく機会があれば、やりがいを感じられますので。

杉田 農業を守るためには人を守ることが大事ですものね。多くの人に農業の楽しさを知ってもらえるよう、頑張ってください！

「仕事を楽しむ」とは・・・

電子回路設計をやっていた頃から、工夫して新しいものを生み出すのが大好きでした。実は農業にも工夫できることはまだまだたくさんあるんです。だから、日々チャレンジできる農業が最高に楽しくて、天職だと感じています！

(横田進)